

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の複数発生について	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (2)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ19-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	2003290787	
	雑誌名	Visual Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	2	
	号	8	
	ページ	834-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	2003	
	著者情報		氏名
筆頭著者		村田洋三	兵庫県立成人病センター皮膚科
その他著者 1		熊野公子	
その他著者 2			
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	複数個の基底細胞癌症例を抽出し、その発生状況を部位的・経時的側面から検討した	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	兵庫県立先人病センター1 施設	
	対象者	322 例の BCC 患者（1987～2001 年）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 1 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	BCC の複数発生	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	BCC 複数発生患者の背景	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	明らかな誘因・素因を欠く BCC 症例のうち、29 例（9.3%）に複数個の BCC が発生した。 ① 年齢：45～92 歳で、特異な年齢のピークはない。 ② 性別：男性 17 例、女性 12 例 ③ 個数と部位：2 個 22 例、3 個 4 例、4 個 2 例、7 個 1 例。顔面頭部に 1 個あり他に 1 個別の BCC があるその部位は、顔面頭部 16 例（84%）、体幹 2 例（11%）、四肢 1 例（5%）であった。 ④ 時間的経過：初診時の複数例が 19 例、初診時に単発病巣であったが、後で発生した症例は 10 例 12 個であった。その内訳は、1 年以内が 4 個、1～2 年が 4 個、4～5 年が 2 個、7～8 年が 1 個、9～10 年が 1 個であった。	
	結論	BCC が発生しやすい個体の遺伝的背景がある可能性が示唆される。 ① 長期フォローで、新発生の BCC を早期に発見・治療できる。 ② 異なった部位に生ずることもあり、全身のチェックを要する。 ③ 初期病巣の観察が可能であり、そのために Dermoscopy は診断には有用である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） 日本における BCC の複数発生を最初に啓蒙した論文であり、フォローアップの必要性が強調される。	

